



帝京大学
国際化
アニュアルレポート



2024
*Annual
Report*

Teikyo University
Annual Report on Internationalization

帝京大学国際化推進室

目次

理事長・学長メッセージ	1
国際化推進体制	2
I. 帝京大学の国際化	
1. 国際化の沿革	3
2. 国際化のビジョン	3
3. 帝京グローバルコンピテンシー	5
4. 海外提携校・機関	7
II. 主な国際交流活動	
1. 特集「学生の国際的な活躍」	9
2. 国際化推進室の国際的な取り組み	11
3. キャンパスの国際的な取り組み	
板橋キャンパス	13
八王子キャンパス	17
宇都宮キャンパス	20
福岡キャンパス	21
ダラムキャンパス	23
4. センター・研究所の国際的な取り組み	24
III. 資料	
外国人留学生在籍者数	27

理事長・学長メッセージ

このアニュアルレポートは、帝京大学における教育と研究の国際交流活動を包括的に整理し、本学の国際化に関する成果を学内外に広く発信することを目的としています。

2024年度は、戦争や紛争が続き、国際社会の分断が深まる一方で、オリンピック・パラリンピックが開催され、世界中の人々がスポーツを通じて平和と連帯を実感する年となりました。こうした国際的な動きの中で、本学の学生や教職員も、教育・研究・文化・スポーツなど多様な分野で国際的な舞台に立ち、活躍の場を広げました。特に学生の活動では、柔道部の学生がアジア選手権大会に出場したほか、ゼミ活動として災害地域への国際ボランティアに参加したり、国際学会で受賞したりするなど、それぞれが専門性を活かしてグローバル社会に貢献しています。

本学は、建学の精神に基づき、幅広い知識と国際的視野を備えた人材の育成を目指してきました。国際的な活動は、世界の課題に向き合う力を育む重要な学びの場となっています。学生一人ひとりがグローバル社会の中で自らの可能性に挑み、実践を通じて成長する姿は、本学が社会に貢献する人材を育て、輩出していることの証です。

今後も、留学支援やキャンパスの国際化、海外提携校との連携強化を通じて、教育・研究の成果を国内外に還元してまいります。引き続き、本学の国際化に関しまして、皆様のご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。



沖永 佳史

帝京大学 理事長・学長

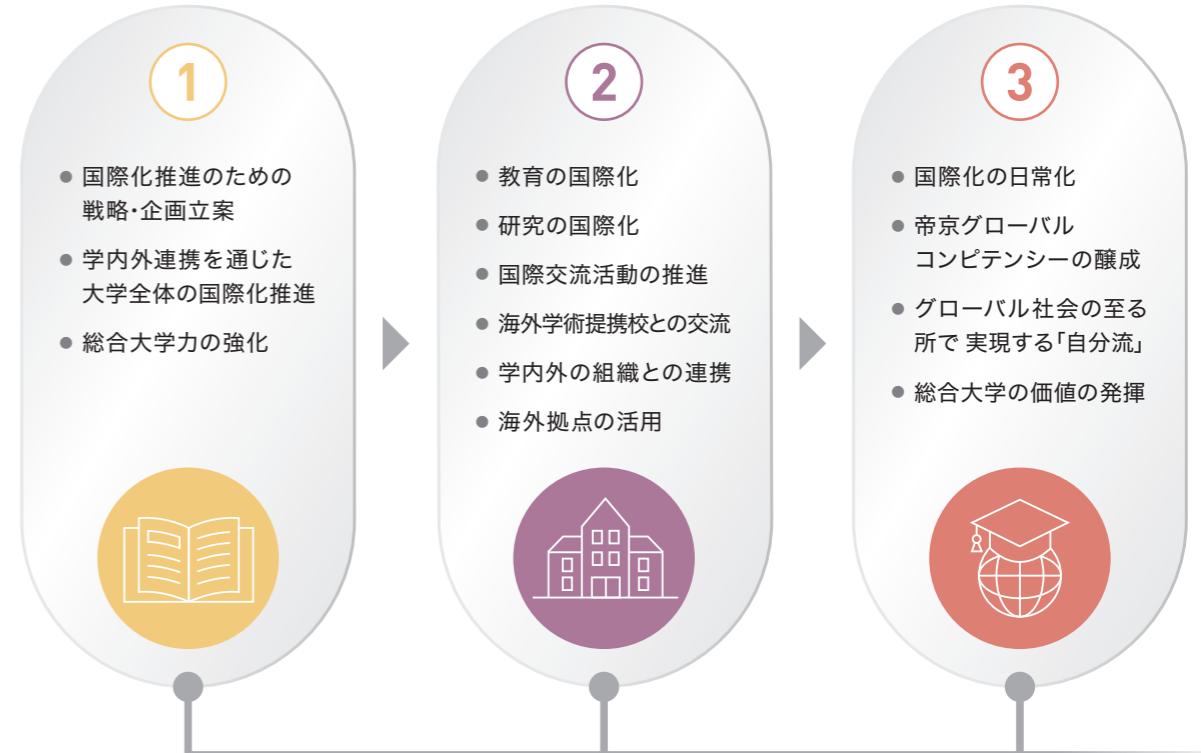
国際化推進体制

帝京大学は、これまで4つのキャンパスごとに国際的活動に取り組んできました。現在のグローバル社会における分野横断的な社会的課題に対応するため、そして帝京大学のすべての人が国際化を日常化する環境には、キャンパスや学部を超えて、帝京大学全体で国際化を一層加速させることが必須です。大学の社会的役割に資するため、本学に集う学生や教職員の成長のため、総合大学の価値をさらに高めて国際化に向かうことにしました。

そのため、2021年4月、学長直下の組織として大学全体で国際化を牽引する機能を備えた国際化推進室を立ち上げました。国際化推進室は、従来から4キャンパスにある国際部門や委員会はもとより、関連する学内外の組織と連携します。そして、学長と共に大学全体の国際化をリードする戦略立案を行い、大学を俯瞰した情報収集や制度づくりなど、帝京の国際化のために働きかけます。



国際化推進室の役割



グローバル社会に生きる、帝京大学のすべての人の「自分流」と総合大学の力で
社会に貢献 未来をつくる 次の世紀もなくてはならない大学へ

I. 帝京大学の国際化

1. 国際化の沿革



2. 国際化のビジョン

帝京大学は、1966年の創立当初から国際的視野に立って判断ができる学生の育成を目指した教育を建学の精神に掲げてきました。それもとにした3つの教育指針「実学」「国際性」「開放性」は、複雑な課題に地球規模で取り組むグローバル化した今の時代にこそ必要なものです。

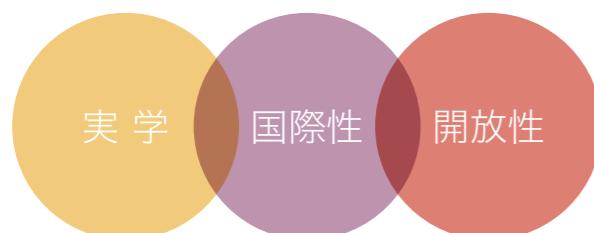
帝京大学 建学の精神 1966年

努力をすべての基とし 偏見を排し
幅広い知識を身につけ
国際的視野に立って判断ができる
実学を通して創造力および人間味豊かな
専門性ある人材の養成を目的とする

帝京大学の国際化の目的

どこにいても、グローバルに、普遍的な視点での観察力、判断力が求められる時代
●一人ひとりがグローバル社会とつながっていることを意識して、自ら行動する人を育てます
すべての学生と教職員が参加する国際化、そして大学が一体に
●優れた教育と研究力に根差して、実学と開放性の総合力で社会に貢献します
帝京大学の国際化の取り組みは、未来を切り開き、より良い社会を実現します

教育指針



自分流 —帝京大学が示す生き方の哲学—

自分のなすべきこと、興味があることを見つけ、生まれ持った個性を
最大限生かすべく知識や技術を習得し、自分の力として行動する

since 1966

帝京大学の国際化推進 学長メッセージ2021

- **実学と開放性 総合大学の力で貢献** 4キャンパスと医療系、理工学系、文科系の分野開放的な実学で、身近な国際化の実現、グローバル社会の役に立つ
- **帝京グローバルコンピテンシーの醸成** どこでも国際化とつながる現代社会の中で生きぬく力
- **国際化を日常化** グローバルエッセンスのある環境、教育、仕事、そして研究

2021 次の世紀にもなくてはならない大学へ 「自分流」の帝京大学 その国際化への挑戦は続きます



3. 帝京グローバルコンピテンシー

コンピテンシーとは、優れた力を発揮する人が持っている能力や資質、行動特性のことです。

帝京グローバルコンピテンシーは、帝京大学で国際化をより良く実現するための能力と資質のことです。

これは、国際的な活動をする人だけが備える能力ではありません。

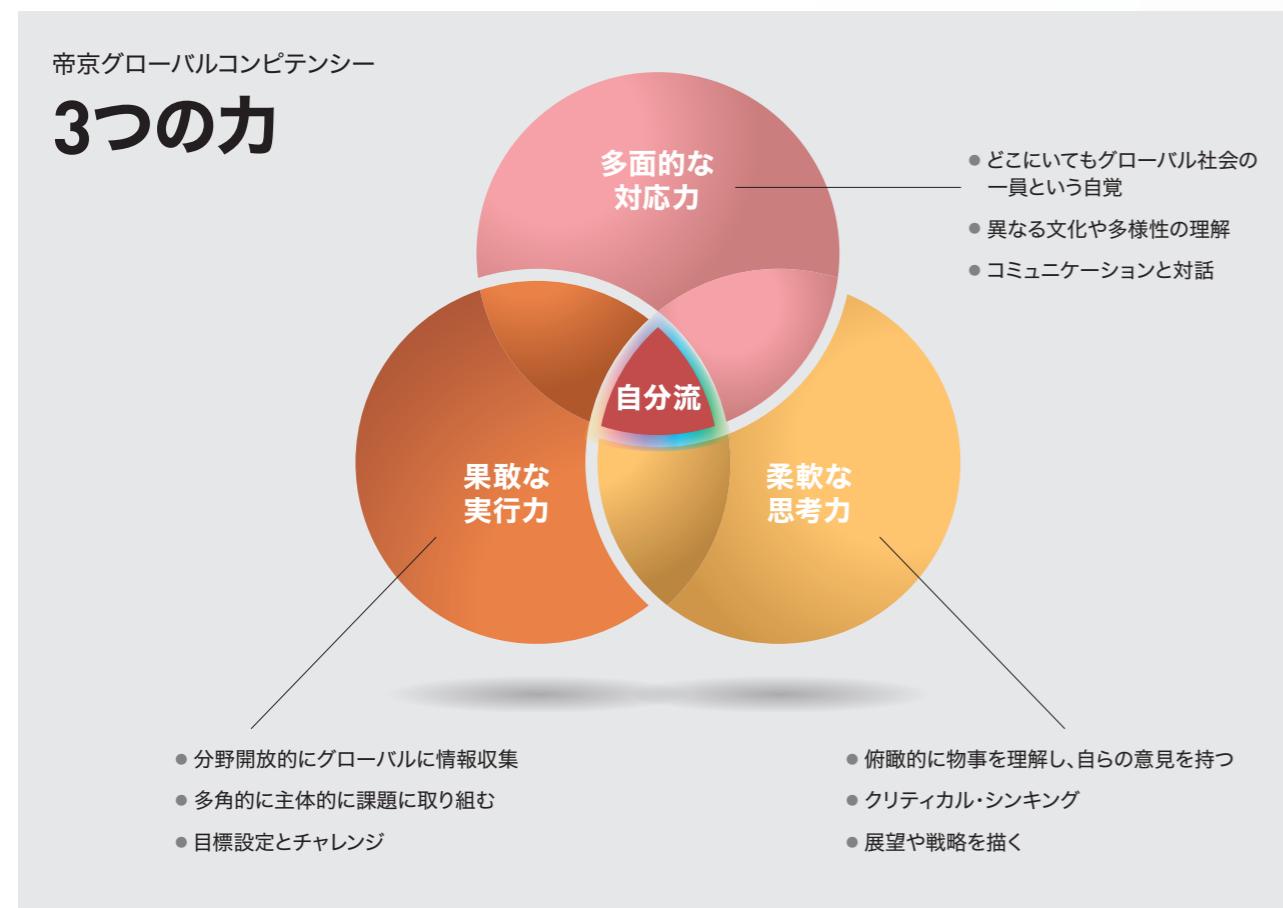
どこにいても国際社会と自分を結び付け、「自分流」を目指して行動する。

帝京大学にかかるすべての人が持っていたい能力のことです。

帝京大学では、大学全体での国際化推進のため、日常のグローバル化を意識し、

持続可能な社会を目指す一員^{×ンバー}という自覚を持った、学生・職員・教員の3つの力

— 多面的な対応力、柔軟な思考力、果敢な実行力 — を育みます。



帝京グローバルコンピテンシーは、学内での開かれた議論を通じて、学生、職員、教員・研究者それぞれに具体的な内容が定められました。帝京グローバルコンピテンシーを醸成できるよう、教育への導入、制度の設計、環境整備、海外提携校との交流、イベントなどの場づくりを行い、帝京大学で身近な国際化を感じ、大学に集うすべての人が国際化を日常化できるようにします。

帝京グローバルコンピテンシー 帝京に集う学生・職員・教員と研究者のために

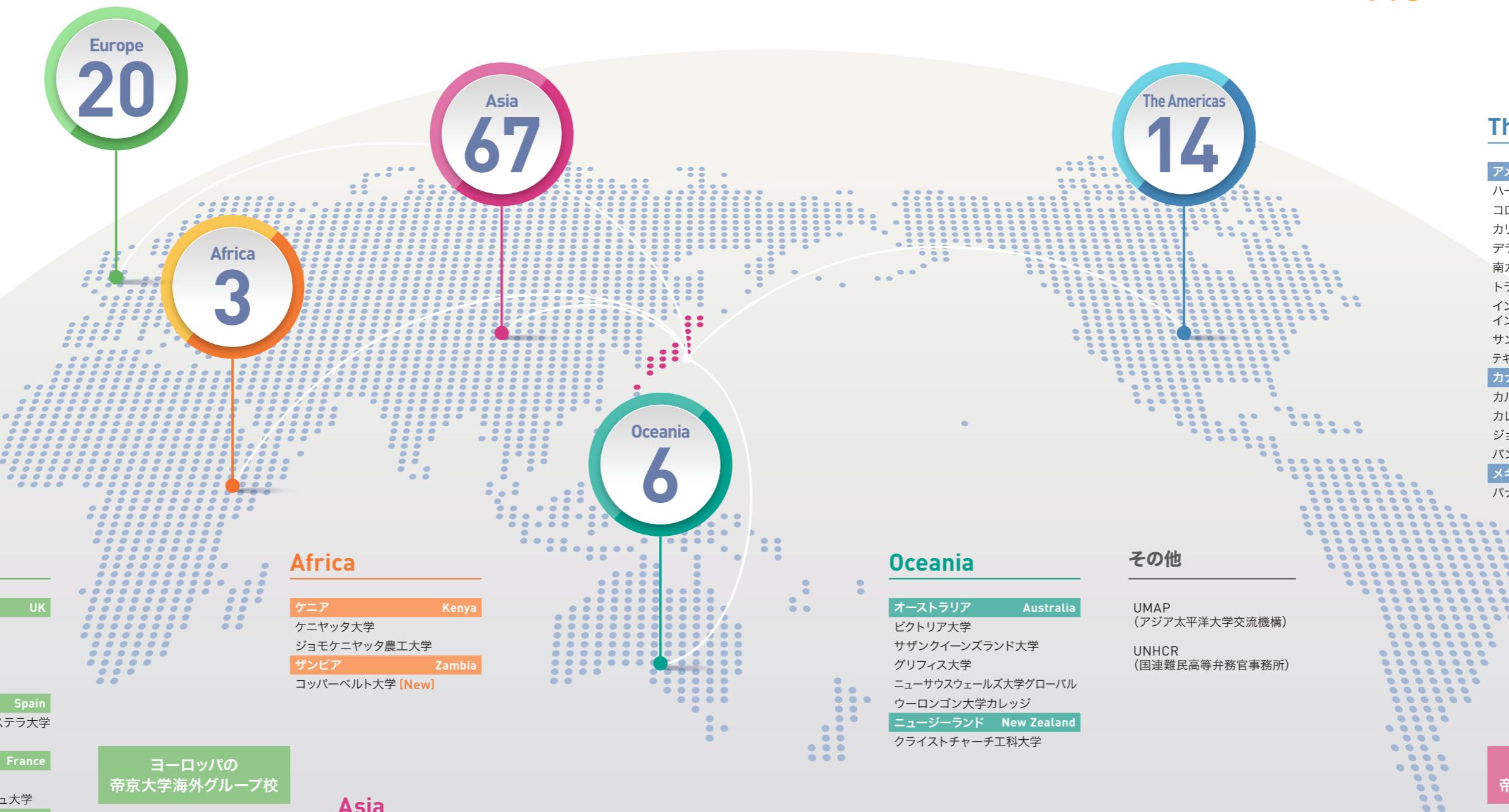
	多面的な対応力	柔軟な思考力	果敢な実行力
学生	<ol style="list-style-type: none"> 自分がグローバル社会の一員であると自覚する 自分の文化と歴史を理解したうえで、異なる文化も理解して、どちらも尊重する 自分と背景が異なる人を受け入れ、コミュニケーションを取る 	<ol style="list-style-type: none"> 多様な価値観や、異なる文化を持つ人の意見を吟味して、自らの意見を考える 国内外に視野を広げて考え、専門分野の方法で分析する 分野を越えた学びを通じて考える力を養い、グローバル社会を生きぬく長期的な人生の準備をする 	<ol style="list-style-type: none"> 興味があることについて、分野や国内外の壁を越えて情報を収集して共有する 多様化するグローバル社会の中で、自らの好奇心を追究し、目指すべき目標を設定する 学生時代の目標に到達するように、帝京大学の国際的な環境を最大限に活かしてチャレンジする
職員	<ol style="list-style-type: none"> 自分の仕事と生活と、グローバル社会とつながりを認識する 帝京大学を、多様性に富んだグローバルな人材が集まる場として尊重する 国や背景を問わず、大学に集う人を受け入れ、コミュニケーションを取る 	<ol style="list-style-type: none"> グローバル社会での大学の位置づけを意識し、大学の課題と自分の役割を考える 所属する部門やキャンパス、国や文化を越えて多様な意見を吟味し、自分の意見を形成する 多様で国際性に富んだ帝京大学の環境を、仕事に活かす思考を持つ 	<ol style="list-style-type: none"> 所属する部門やキャンパス、国内外の壁を越えて情報を収集して活用する グローバルで多角的視点を持って、積極的かつ主体的に業務の課題に取り組む 帝京大学の国際性を活かし、グローバル社会に生きる自分のキャリアゴールに到達するようチャレンジする
教員・研究者	<ol style="list-style-type: none"> 異なる文化の学生や教員、国内外の研究者らと協働し、多様性を尊重する 留学生や共同研究者、実務家など異なる背景の人と対話する 一般の人や学生に、世界最新の知見や研究成果をわかりやすく伝える 	<ol style="list-style-type: none"> 世界的な大学教育のあり方を意識して教育に取り組む考え方を持つ 学問分野や国の垣根を越えた教育と研究の交流と議論に参加して、批判的に思考する グローバルで多様性に富む帝京大学の環境を戦略的に活用し、研究と教育を計画する 	<ol style="list-style-type: none"> グローバル社会の動向を捉え、専門分野における国内外の情報を分野横断的に得て、研究や教育を行う 国際的水準の教育と研究実施に挑戦し、その成果を発信する 帝京大学の国際性を通じて、自らのキャリアゴールに到達する努力を継続する

4. 海外提携校・機関

2025年3月時点

Teikyo Global Network

Agreements with
110 overseas institutions



ヨーロッパの 帝京大学海外グループ校



帝京大学ダラムキャンパス



帝京大学ロンドン学園高等部

Asia

中国 China	韓国 Korea	マレーシア Malaysia	ラオス Laos	イラン Iran
吉林財経大学	中央大学校	サンウェイ大学	ラオス国立大学	アフワズ・ジュンディシャブル医科大学
ハルビン医科大学	水原大学校	インドネシア Indonesia	タイ Thailand	イスファハン医科大学
北京第二外国语学院	東亞大学校	ブラウイジャヤ大学	チュラロンコン大学	イラン国立博物館
北京語言大学	水原科学大学校	アトマジャヤカトリック大学	パンヤピット経営学院	トルコ Türkiye
北京大学公共衛生学院	濟州大学校	ダルマブルサダ大学	マヒドン大学	ウシヤク大学
上海交通大学	漢陽大学校	ジェンデラル・スタイルマン大学	コンケン病院	ウズベキスタン Uzbekistan
マカオ大学	釜山外国语大学校	i3L 大学	カンボジア Cambodia	国際中央アジア研究所
天津市第一中心医院	嘉泉大学校	ブレジנטント大学	バニヤサストラ大学	ウズベキスタン国立大学
山東交通学院	崇実大学校	バンドン工科大学	メコン大学	ウズベキスタン・日本青年技術革新センター
華東師範大学	韓国外国语大学校	ベトナム Vietnam	ノートン大学	キルギス Kyrgyzstan
西南大学	台湾 Taiwan	ホーチミン市外国語情報技術大学	経営経済大学	中央アジア・アメリカン大学
青海大学	台北医学大学	ホーチミン市技術師範大学	ミャンマー Myanmar	キルギス国立科学アカデミー
河南大学	義守大学	ホーチミン市工科大学	ヤンゴン経済大学	歴史考古学民族学研究所
河北北方学院	フィリピン Philippines	ハノイ医科大学	ベトナム國家大学ハノイ校	キルギス医学アカデミー [New]
	フィリピン大学マニラ校	ベトナム国立小児病院	グエン・タット・タイン大学	
	アダムソン大学	ベトナム国家大学ハノイ校		
	デ・ラ・サール大学ダスマリニヤス	グエン・タット・タイン大学		

アジアの 帝京大学海外グループ校



帝京香港幼稚園



帝京マレーシ亞日本語学院



II. 主な国際交流活動

1. 特集「学生の国際的な活躍」

学生による国際支援活動～TABLE FOR TWO × 帝京大学～

永井ゼミが2024年度 TABLE FOR TWO(TFT)活動を実施しました

2024年6月～12月

経済学部経済学科講師 永井リサのゼミが、学生食堂ソラティオキッチンと薦友館食堂にて、途上国の子どもたちの給食費となる20円を付加した TFT メニューを提供する活動を実施しました。

TFT とは、国際 NPO 法人 TABLE FOR TWO International が推進する、先進国における肥満など食に起因する生活習慣病と、発展途上国の飢餓や栄養失調の問題という食の不均衡を解消し、双方の人々の健康を同時に改善することを目指す取り組みです。メニュー考案から価格設定、広報活動、当日の販売に至るまで、食堂チーフや永井講師のサポートを得ながら学生たちが主体となり実施しています。2024年度は青舎祭で4種類の TFT メニューを提供したり、国際化推進室と連携して「おにぎりアクション」と TFT を掛け合わせたメニューを提供したり、新しいことにもチャレンジしました。学生たちの活動が徐々にキャンパス内で認知され、2024年度の販売食数は2,942食になりました。



板橋キャンパス学生食堂にて「世界の料理」プロジェクト第8弾(世界のおにぎり定食編)を実施しました

2024年10月21日～11月1日

板橋キャンパス学生食堂ゴデレッショにて、世界の料理プロジェクト第8弾を実施しました。

今回は、国際 NPO 法人 TABLE FOR TWO International 主催で実施している「おにぎりアクション」に絡めて、「世界のおにぎり定食」を販売しました。「おにぎりアクション」とは、おにぎりの写真を SNS や特設サイトに投稿すると、1枚の写真投稿につき給食5食分に相当する寄付を協賛企業が行い、アフリカ・アジアの子どもたちに給食をプレゼントできる取り組みです。

この取り組みを推進するため、国際化推進室と社会医学研究会および東洋医学研究会の学生が協働し、メニュー案の企画から販売、本アクション参加への呼びかけを実施し、アンケートでは約70名の方が参加したとの回答がありました。

また、八王子キャンパス経済学部の永井ゼミでも、学生食堂ソラティオキッチンにて「出汁香る牛すじ大根の贅沢おにぎり膳」を販売し、キャンパス横断的に「おにぎりアクション」を盛り上げました。



本学では、海外の大学や機関との交流を通じて、学生が国際的な視野を広げ、多様な経験を積む機会を提供しています。国際ボランティア活動、世界的なスポーツ大会への出場、国際会議への参加等、学生が世界を舞台に活躍する場面は年々広がっています。本特集では、2024年度に国際的な活動を行った学生の中から、特に印象的な取り組みをいくつかご紹介します。

世界の舞台で輝く帝京のアスリートたち

パリ2024オリンピック体操種目別決勝男子ゆかと跳馬で本学学生が金メダルを獲得しました

2024年8月3日～4日

フランスで開催されたパリ2024オリンピック競技大会の体操種目別決勝において、フィリピン代表として出場したカルロス・ユーロさん(医療技術学部2年)が男子ゆか、跳馬で金メダルを獲得し、種目別2冠を達成しました。

カルロスさんは、2016年に来日し高校卒業以降、帝京スタディーアプロードセンター日本語予備教育課程を修了、帝京大学短期大学卒業後に本学に入学しました。本学医療技術学部助教 釘宮宗大がコーチとして支え、フィリピン代表として初めて出場した東京2020オリンピック競技大会では、種目別決勝の跳馬で4位入賞し、世界選手権でも種目別決勝のゆかと跳馬で金メダルを獲得するなど、着実に実績を残していました。2024年10月には本学に来校し、パリ2024オリンピック競技大会の結果報告を行いました。



アジア ジュニアカデット&アンダー21空手道選手権大会で本学学生が金メダルを獲得しました

2024年8月23日～25日

II. 主な国際交流活動

2. 国際化推進室の国際的な取り組み

国際化推進室は、本学の建学の精神と教育指針の1つである「国際性」に基づき、本学の国際化をより一層充実すべく2021年4月に学長直下の組織として設置されました。次の時代を見据え、学生、教員、職員一人ひとりが国際化に携わり、国際化が日常化し、本学の教育・研究・仕事のどこかで必ずグローバル社会と結びついていく——。そんな大学にするために、国際化推進室はこれからも取り組みを拡充・強化していきます。



ダラム大学ジェレミー・クック副学長が来校しました

2024年4月1日～5日

本学とMOU(国際交流協定)を締結しているダラム大学(イギリス)のジェレミー・クック副学長が来校しました。

同氏は2024年度本学入学式に海外来賓としてご臨席いただく目的で来日しましたが、そのほかの日には、八王子・板橋の各キャンパスにてさまざまな行事にご参加いただきました。

八王子キャンパスでは、ダラム留学を実施している外国語学部教員と懇談後、国際日本学科のオリエンテーションに参加され、新入生に入学のお祝いと激励の言葉をいただきました。板橋キャンパスでは、新年度記念・国際講演会において、「Student Mental Health」をテーマに、イギリスの学生間で拡大しているメンタルヘルスの課題とその要因についてご講演いただきました。英語での講演でありながら、聴講者全員が真剣に聞き入り、講演後には積極的な質疑応答が交わされました。



帝京大学がNAFSA 2024 Annual Conference & Expoに出展しました

2024年5月27日～31日

アメリカ・ニューオーリンズで実施されたNAFSA2024に本学が出席しました。

本イベントはAssociation of International Educatorsが主催している最大規模の国際交流コンベンションです。今回は世界中の大学・高等教育機関から約8,300名が参加しました。参加者はセミナーやワークショップを通して国際交流や教育に関する最新動向について理解を深め、COVID-19で縮小した国際交流を以前の水準に回復させ、さらに拡大させることを目指しました。

本学は国際交流教育協議会(JAFSA)主催の日本の大学・教育機関が参加するブースに出席し、協定校との交流拡大や新たな提携先の開拓に向け、欧米の大学を中心に30校以上の海外の大学と面談し、そのうち20校以上と新規提携に向けた協議を行いました。



帝京大学がAPAIE2025出展とアミティ大学への訪問を行いました

2025年3月25日～28日

インド・デリーで開催されたアジア太平洋地域国際交流コンベンションAPAIE2025に本学が出展しました。本コンベンションは、アジア太平洋地域を中心に世界中の大学・高等教育機関が参加する大会で、今回は2,000名以上の参加者が集まりました。

本学は20校以上の海外の大学と面談を行い、特にアジアの国々と情報交換を行いました。面談では、本学と協定を締結している大学との関係強化に加え、新たな大学との提携に向けて短期留学プログラムや交換留学プログラムなどについて協議するなど、さまざまな交流を行う貴重な機会となりました。

最終日にはアミティ大学(インド)を訪問しました。同大学と本学は過去10年以上の交流があり、2014年には教職員を、2018年度にはさくらサイエンスプログラムを通して教員および学生を受け入れました。



FD・SD国際化セミナーを実施しました

2025年3月14日

教職員研修(FD・SD)として国際化セミナーを開催しました。本学の教職員全員を対象に、板橋キャンパスには対面会場を、八王子・宇都宮・福岡・霞ヶ関の各キャンパスにオンライン視聴会場を開設して実施しました。

本セミナーは、教職員一人ひとりが日本の大学が国際化を進めている社会・経済的背景を把握し、本学の国際化の現状と今後の方針を理解することを目的としています。

当日は本学常務理事・副学長 冲永寛子による開会の挨拶から始まり、ゲストスピーカーとしてお迎えした一橋大学全学共通教育センター教授 太田浩氏より「日本の大学の国際化をめぐる動向: 講題と機会」をテーマにご講演いただきました。また、本学理事長・学長 冲永佳史より、ビデオメッセージで本学の国際化の方向性が述べられ、その後、国際化推進室から教職員それぞれに向けて、国際化の現状と課題や今度の発展について講演しました。



第3回グローバルチャレンジセミナー「おにぎりで世界をつなぐ～SDGsの実践～」を実施しました

2024年10月25日

第3回グローバルチャレンジセミナー「おにぎりで世界をつなぐ～SDGsの実践～」をオンラインにて、本学全キャンパスの学生・教職員を対象に実施しました。

本セミナーは4つのキャンパスの学生・教職員が、1つの国際的なテーマについて学部や分野を横断して学び、その後のディスカッションを通して、本学の掲げる帝京グローバルコンピテンシーや「グローバル化を日常に」というコンセプトを体感することを目的としています。

八王子キャンパス経済学部経済学科講師 永井リサによる講義では、おにぎりを通してアジア・アフリカの子どもたちを支援する「おにぎりアクション」や最新のSDGsの動向・IDGsについて紹介しました。学生・教職員といったさまざまな立場の参加者が集い、キャンパス横断的にディスカッションを行いました。

「おにぎりアクション」については、板橋キャンパス・八王子キャンパスの学生食堂で、対象期間におにぎり定食の販売を行い、本学も積極的にこの取り組みに参加しました。国際化推進室では今後も、キャンパス横断的に国際的なテーマについて学び、交流する機会を提供していきます。

ソラティオキッチンでハラールフードの販売を開始しました

2024年11月18日

八王子キャンパスソラティオキッチンにて、株式会社二宮のハラールフードの販売を開始しました。

今回、学内においてハラールフードの取り扱いを開始するにあたり、学生の意見を直接聞く機会としてハラールフードの試食会や銀座スエヒロとのミーティングを設け、大学と学生がともに意見を出し合い進めてきました。ハラール認証マークが付与された食事の導入によって、ムスリム学生が安心してキャンパスライフを送ることができるようになります。本学では、文化や宗教の違いに配慮して学生が生活しやすい環境を整えるべく、SDGsの理念にもある「誰一人取り残さない」取り組みを継続して実施していきます。

学生食堂にて「世界の料理」プロジェクト第7弾(マレーシア・インド編)を実施しました

2024年4月22日～26日

板橋キャンパス学生食堂ゴテレッチョにて、「世界の料理」プロジェクト第7弾マレーシア・インド編を実施しました。

本プロジェクトは世界各国の代表的な料理をイベントメニューとして学食で販売しており、これまで台湾、ボストン、メキシコなどのさまざまな国や地域の料理を提供してきました。今回はマレーシアのカリアヤム、インドのサグバニール、同じくインドのキーマカレーの3種類を曜日替わりで販売し、連日完売となりました。

ポスターでは本学海外グループ校の1つである帝京マレーシア日本語学院を紹介しました。同学院は毎年多くの学生を日本の大学に輩出しており、2020年に同学院から本学へ進学したシャヒル・ビン・アブドゥルさんは、同学院の学生2名と「地震の揺れによる小売店での商品の落下や破損を防ぐ装置」を共同開発し、第12回国際イノベーションコンテストの世界大会では日本代表として第2位を受賞するなど素晴らしい成果を残しました。



II. 主な国際交流活動

3. キャンパスの国際的な取り組み

各キャンパスの代表的な活動を紹介します。

板橋キャンパス

基本情報

設置学部

医学部、薬学部、医療技術学部

設置研究科

医学研究科、薬学研究科、医療技術学研究科、公衆衛生学研究科



板橋キャンパスには医療系学部が集まっており、未来の医療人を養成しています。キャンパス内には医学部附属病院があり、充実した設備のもと、総合的かつ実践的な先端医療を学ぶことができます。教育では、Bedside Clerkship(BSC)などを含む医療に特化した短期留学の実施や、学科のスケジュールに沿った独自の短期海外医療研修プログラムが展開されています。研究についても世界の研究者との共同研究が行われています。

教育活動

ハーバード特別講義を実施しました

2025年1月6日～24日

本講義は本学とハーバード大学の学術提携に基づいており今回で13回目を迎えます。今年は世界的な教科書となる本を出版するなど、各専門の第一人者であるハーバード T.H.Chan 公衆衛生大学院教授 Murray Mittleman 氏、David Wypij 氏、Ichiro Kawachi 氏、同大院准教授 Jaime Hart 氏、そしてオックスフォード大学教授・ヘルスエコノミクス研究センター所長 Alastair Gray 氏をお招きしました。

本講義は学内外に公開しており、本学の八王子キャンパスと宇都宮キャンパスから教員や学生が参加したほか、他大学や社会人といった一般の方にもご参加いただきました。また、本学の学術提携校であるチュラロンコン大学やマヒドン大学、フィリピン大学マニラ校、台北医学大学などから前年以上に多くの学生が参加し、学生同士で交流会を実施するなど対面ならではの国際交流を深めることもできました。1993年に本学とハーバード大学との学術提携が締結されてから30年以上経過し、これからもますます教育と研究での交流を深め、将来の人材育成を行い、社会に貢献していきます。



診療放射線学科の学生が台湾で放射線技術研修を行いました

2024年11月4日～5日

義守大学(台湾・高雄市)にて、本学医療技術学部診療放射線学科の学生と教員が、放射線技術研修を行いました。同大学放射線学科とは2024年3月にMOUを締結しており、今回の研修では両大学の人的交流をさらに深めることを目的として本学学生が義守大学を訪問し、施設内や授業の様子、医学部キャンパス内にある付属教育病院である義守大学病院、義守大学がんセンターなどを見学しました。

また、同年11月1日～3日に台南市で開催された国際学会(GCBME2024)にも参加し、本学からは5つの演題発表を英語で行いました。鈴木美有海さん(医療技術学部3年)の演題が最優秀賞を、木村小春さん(医療技術学研究科2年)の演題は優秀賞を受賞しました。本学会には本学医学部附属病院診療放射線技師と義守大学病院診療放射線技師が演題発表をしており、会場においても本学と義守大学の交流が行われました。



アメリカ・インドネシア・タイの留学生を迎えて帝京国際サマースクールを実施しました

2024年6月29日～7月6日

本学大学院公衆衛生学研究科が帝京国際サマースクールを実施しました。学術提携校であるアメリカの南カリフォルニア大学医学部グローバルヘルス修士課程の大学院生、インドネシアのアトマジャヤカトリック大学の学生、タイのチュラロンコン大学公衆衛生学部の大学院生を迎え、本学の学生とともに英語による講義を行いました。同研究科教授 中田善規による Healthcare Management では、主に組織マネジメントをテーマに講義を行い、同研究科准教授 井上まり子によるコースでは、日本の保健医療システムの現状や歴史とともに、世界的な開発課題でもある Universal Health Coverage(UHC)の概要を学び、高齢化社会の中の UHC について学習しました。

本スクール期間中は都内の台東保健所や特別養護老人ホーム加賀さくらの社にもご協力いただき、フィールドにも訪問しました。グループでの課題発表を行い、アクティブラーニングの機会を得て、今後の改善案を提案するなど、日本の公衆衛生に関する理解を深めました。今年度は日本も含めて4か国の学生の参加があり、異なる文化の学生たちが1つの場に集うことで、講義中はもとより、休み時間や放課後にも一緒に語りあう姿がみられました。



第13回 学生による海外留学報告会を実施しました

2024年11月14日

本学医療系学部の学生による第13回学生による海外留学報告会を実施しました。

当日は学生や教職員あわせて50名近く参加があり、相互交流として学生の派遣と受け入れを行っている台北医学大学とマヒドン大学との交流について、本学医療技術学部看護学科の学生と同学部臨床検査学科の学生が発表を行いました。また、医学部の学生からは、5年次に行われるベトナムでの衛生学公衆衛生実習やワシントン大学での医療倫理に関する研修、6年次に行われるバルセロナ大学での臨床実習(BSC)についての報告がありました。医学部附属溝口病院の医師からも、本学のダラムキャンパスに3か月滞在して語学研修を行った成果について報告がありました。現地ならではの気づきや、海外に出た体験から日本の医療について考えるなど、留学での学びの成果だけでなく、それぞれの国際交流活動の内容や方法、その後の成果についても活発な質疑応答が行われました。



医学部の学生がベトナムで衛生学公衆衛生実習を実施しました

2024年7月15日～20日

ベトナム国立小児病院およびハノイ医科大学で本学医学部の5年生が衛生学公衆衛生実習を実施しました。本実習は本学とベトナム国立小児病院およびハノイ医科大学間において単位互換協定の締結をもとに、アジアを中心に世界中で発生している感染症の実状を観察して今後の医療活動に役立てることや、国際的視野にたった医療人を目指すことを目的とし、主に臨床実習、国際保健、予防医学、医療システム・アクセスについて学習しました。

また、現地で紹介いただいた新たな訪問先のハイズオン小児病院では病院設立経緯について伺い、感染症病棟と集中治療室を見学しました。本実習を通して感染制御や国際医療、ベトナムの医療事情について学び、多角的な視点から理解を深めることが期待されます。



板橋キャンパスで第56回日本医学教育学会大会が実施されました

2024年8月9日～10日

板橋キャンパスで第56回日本医学教育学会大会が実施されました。

「ダイバーシティ& インクルージョン～すべての人が輝ける医療教育～」を基調テーマとした本大会は、本学副学長・医学部教授 沖永寛子が大会長を、医学部医学教育学講座主任教授・医学教育センター長 大久保由美子が大会実行委員長を務めました。本大会には海外からの参加者を含め、過去最高の1,700名を超える医学・医療教育に携わる多職種の方がたが参加しました。

医療者として根幹となる資質・能力を養い、多職種で複合的な協力をを行い、多様かつ発展する社会の変化に対応して活躍できる医師や医療者を生み出す医療者教育について、国内外の最先端の知見や意見を交換する場となりました。学生による研究発表や学生が企画した他大学学生との交流会も好評で、本学の教育実践を国内外に紹介することもできました。



研究活動

谷津智史助教が Bio Japan2024に出展しました

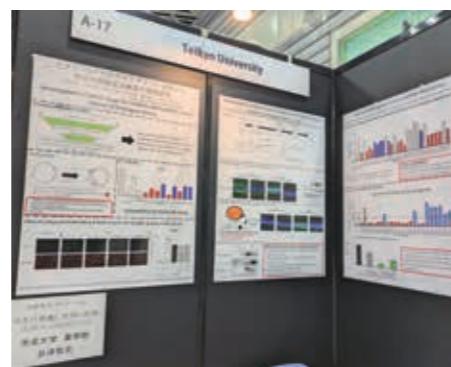
2024年10月9日～11日

パシフィコ横浜(神奈川県横浜市)で開催された Bio Japan2024に、産学連携推進センターから薬学部助教 谷津智史が研究を出展しました。

Bio Japan は創薬・ヘルスケア・エネルギーなど多岐にわたるバイオ産業のビジネスマッチングを目的としており、国内・海外の多くの企業や研究機関との共同研究や研究の商業化を促進させるイベントです。各國・各地域から企業や大学などが多数参加し、3日間の来場者総数は18,003名になりました。

本展示会にて谷津助教は「ビタミンDアナログライブラリーを用いた糖尿病網膜症治療薬の開発研究」を紹介し、連日、多数の来場者が訪れ最終日にはプレゼンテーションも行い、企業や研究機関などさまざまな方と活発な意見交換が行われました。

谷津助教は現在、糖尿病網膜症の予防・治療薬としてのビタミンD類縁体(アナログ)の開発研究を進めています。本薬剤はこれまでの薬剤に比べて、初期段階での予防・治療効果が認められる可能性があるため、社会的なニーズが高いと考えられます。本研究は特許出願中であり、将来的には内服薬や点眼薬など、患者さんや医療従事者にとって使いやすい薬剤とすることを目指しています。



キルギス医学アカデミー(KSMA)との MOU を締結しました

2024年5月3日

本学とキルギス医学アカデミー(KSMA)間で、教育・研究・学生交流に関するMOUを締結しました。

同大学は中央アジアのキルギスに設立された最初の大学の1つで、多くの先進的な医療を取り入れており、高度な医療資格を有するスタッフが多数在籍しているほか、国内外のさまざまな医療分野における専門家を絶えず招聘しています。本学はこれまでキルギス医学アカデミーとさまざまな連携事業を実施してきました。この度、より強固な連携構築を目的に、本学理事長・学長 沖永佳史が同大学を訪問し、学長 グダイベルジェノバ・インディラ・オロゾバエヴァナ氏とMOUを締結しました。本MOUは研究者・教員・学生の交流、共同研究の促進、学術分野の幅広い交流を進める内容となっており、この締結を機に、キルギス医学アカデミーとのさらなる交流を進めてまいります。

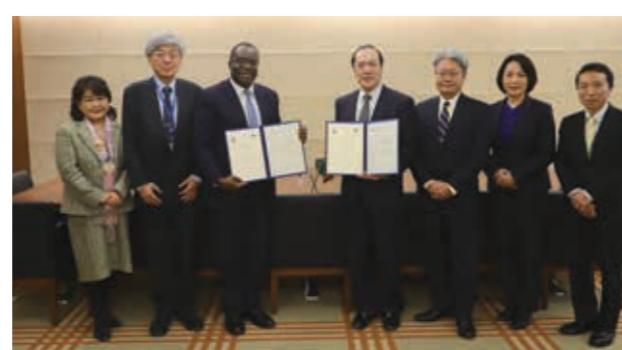


その他の活動

帝京大学－アフリカ交流記念講演会「ザンビアの保健医療と日本のパートナーシップ」を開催しました

2025年2月5日

板橋キャンパス臨床大講堂にて、一般社団法人アフリカ開発協会との共催で、帝京大学－アフリカ交流記念講演会「ザンビアの保健医療と日本のパートナーシップ」を開催しました。本講演会では、コッパーベルト大学副学長 ハンゴンベ氏に来校いただき、自身がザンビアで本学薬学部教授 山本秀樹らと JICA(国際協力機構)において一緒にコレラ対策の仕事をしたことや、日本の大学で博士号を取得した経験を交えて「アフリカと日本の間のひとつづり」というタイトルで講演いただきました。本学からは本学理事長・学長 沖永佳史、国際交流センター長・教授 大金正知が登壇し、本学とザンビアの今後の交流の可能性について述べ、当日は大使館や教育機関、企業から、オンラインを含め100名以上の参加があり大盛況となりました。本学はコッパーベルト大学と大学間協定を結び、今後もザンビアをはじめとしたアフリカ地域との友好関係の発展に努めています。



台北医学大学の一行が板橋キャンパスを見学しました

2024年5月22日

台北医学大学(台湾・台北市)の一行が本学板橋キャンパスにて、キャンパス・病院見学を行いました。同大学は本学の提携校であり、今回の訪問は3回目となり、研修のため20名が本学を訪問しました。

一行は板橋キャンパスのシミュレーション教育研究センターなどの医療系実習室を見学したあと、医学部救急医学講座教授 金子一郎と公衆衛生学研究科教授 中田善規による講義に参加しました。実際に患者シミュレーターを使った講義で本学の最新技術の体験や、隣接する本学医学部附属病院の見学も行いました。

中国ハルビン医科大学訪問団が本学を来訪しました

2024年10月20日～21日

本学の学術提携校であるハルビン医科大学学長 季勇氏、ハルビン医科大学附属第六病院院长 蔣伝路氏、国際交流処処長 董鑫氏、発展企画処処長 徐威氏ら訪問団5名が本学に来訪されました。同大学と本学は1997年から学術提携を行っています。

本学からは板橋キャンパスグローバルオフィス委員会委員長・教授 中田善規、同委員会副委員長・教授 井上まり子、同委員会委員・帝京平成大学教授 展広智氏らが帯同し、今後の学術交流について意見交換を行いました。また、本学理事長・学長 沖永佳史と学術提携してからこれまでの28年間の交流実績を振り返りながら、今後のさらなる緊密な学術交流などについて意見交換と再確認を行いました。2026年9月に開催されるハルビン医科大学創立100周年記念式典に沖永学長が招待されました。



八王子キャンパス

基本情報

設置学部

経済学部、法学部、文学部、外国語学部、教育学部、医療技術学部

設置研究科

経済学研究科、法学研究科、文学研究科、外国語研究科、教職研究科



八王子キャンパスは多摩丘陵の豊かな自然を生かした高台に位置し、構内のあちこちからのぞむ景色が美しいキャンパスです。「SORATIO SQUARE」には一般教室のほか、観覧席を備えたアリーナや食堂が設置されています。また、75万冊の蔵書を備えたメディアライブラリーセンターをはじめ、国際交流のための「OUCHI COMMONS」や語学学習専用施設「Teikyo Language Commons」など、最新の施設と設備が整備されています。

教育活動

三竜ゼミと大脇ゼミがカンボジアでのアントレプレナーシップ醸成海外研修を合同実施しました

2025年2月9日～21日

経済学部経営学科准教授 三竜康平および同学部経済学科講師 大脇淳一のゼミ生8名が、カンボジアのプノンペンとシェムリアップを訪問し、アントレプレナーシップ(起業家精神)の醸成を目的とした海外研修を実施しました。

学生たちは王立プノンペン大学で開催された絆フェスティバルに参加し、おにぎりやクレープの販売体験をしました。販売体験期間中には、日本に興味を持つ多くのカンボジア人が販売ブースを訪れ、学生が手づくりしたおにぎりやクレープ、スイーツ串を手に取っていました。

販売体験の売り上げは、支援金として「カンボジア・愛センター（経済的理由などさまざまな事情によって十分な教育を受けることができないカンボジアの子どもたちを支援する学校）に届けました。同センターには期間中複数回訪問し、支援金の贈呈のほか、現地の子どもたちと一緒にサッカーやバレーボール、塗り絵などで遊び、心の交流を深めました。本取り組みはこれまで座学で培ってきた知識をもとに、カンボジアという海外のフィールドにおいて一から商品企画・開発し、販売体験まで実施するというアクティブ・ラーニングの場で「経営」を実体験することでアントレプレナーシップを醸成し、卒業後の社会人生活においてリーダーシップを發揮し、即戦力として活躍することができる人材を育成することを目的としています。

第3回学長杯 留学生日本語プレゼンテーションコンテスト実施報告について

2024年12月9日

八王子キャンパスにて、第3回学長杯 留学生日本語プレゼンテーションコンテストを実施しました。本コンテストは留学生の日本語学習成果発表の機会を提供し、留学生の日本語能力の向上だけでなく、留学生と日本人学生が共同学習の場として異文化理解を深めることを目的としており、留学生スピーカーと日本人学生サポートーがペアとなり、プレゼンテーションの準備を進めてきました。

今回は「日本に取り入れたい〇〇〇のモノ」をテーマに、書類選考を通過した留学生スピーカー9名が自身の考えや提案について経験を交えながら堂々とプレゼンテーションを行いました。学長賞は留学生スピーカー アル クリスナ マウラナさん（帝京大学短期大学1年）と日本人学生サポートー 横田鈴奈さん（経済学部3年）の「日本でハラールフードを広めたい」に決定しました。

今後も本学では、日本語教育センターによる留学生の日本語学習サポートと、国際交流課による留学生と日本人学生との異文化交流スペース「OUCHI COMMONS（オウチコモンズ）」の運用を通して、学習と交流を軸にキャンパスの国際化を推進していきます。



「日本舞踊」を知るワークショップを実施しました

2024年11月7日

八王子キャンパスにて、藤間勘右衛門派師範 藤間豊勇氏をはじめとする講師の方がをお招きし、日本の伝統文化である「日本舞踊」ワークショップを実施しました。本ワークショップには、八王子キャンパスに通う留学生や日本人学生の約30名が参加し、「日本舞踊を知ろう」「浴衣を着てみよう」「日本舞踊を体験しよう」の3本立てのプログラムを通して日本の伝統文化に触れる貴重な機会となりました。



留学フェアを実施しました

2024年4月23日～25日、9月19日～25日

学生の国際的な視野を広げることを目的とし、留学フェアを開催しました。本フェアでは各種留学プログラムの募集説明会に加え、留学経験者による座談会や個別相談会等を実施し、留学に関する多角的な情報提供を行いました。延べ350名以上の学生が参加し、職員からの説明や実際の体験談を通じて留学の魅力や課題に触れることで、留学への理解を深める貴重な機会となりました。



駐日トルコ共和国特命全権大使による特別講義を実施しました

2024年7月12日

経済学部国際経済学科講師 伊藤寛了が担当する「世界の情勢（中東）」において、駐日トルコ共和国特命全権大使 コルクット・ギュンゲン氏をお迎えし、特別講義を行いました。本講義ではトルコが地理的にも文化的にもヨーロッパとアジアの両方にまたがり、中央アジアやヨーロッパの歴史をくんでいること、文化や人の往来によりトルコ料理が豊かな食文化を生み出したこと、現在は世界最大の難民受け入れ国としてシリアをはじめウクライナなどの難民を支援していることなど、トルコと世界の関係について説明されました。特別講義には理工学部バイオサイエンス学科で学ぶトルコからの留学生も参加し、トルコの情勢について理解を深める大変貴重な機会となりました。

本学留学生が第78回日本書芸院展の対話型鑑賞会に参加しました

2024年4月20日

本学八王子キャンパスの留学生3名が、グランキューブ大阪（大阪府大阪市）にて実施された第78回日本書芸院展の対話型鑑賞会に参加しました。本イベントは2025年に実施された大阪・関西万博の書道展示ブースに関連するイベントとして、留学生に日本の書道文化を紹介し、異文化理解を深めることを目的としていました。留学生たちは本展を鑑賞後、会場内の作品、書の技法、日本や自国の文化などに関する意見交換を行い、参加した留学生たちは「外国人にとって作品が何を書いているのか言葉 자체は理解できなくても、その筆跡から作者のメッセージを感じることができるとわかった」と感想を話しました。留学生にとって日本の書道に触れる貴重な機会となり、書道を通じた異文化交流のモデルケースとなる試みになりました。

研究活動

大塚ゼミがグローバルスタディーズ演習でフェアトレードに関する研究活動を実施しました

2024年10月26日～27日

八王子キャンパスにて第58回帝京大学青舎祭が開催され、外国語学部外国語学科准教授 大塚麻代のゼミが、グローバルスタディーズ演習の活動実践として、フェアトレードのコーヒー販売と募金活動を実施しました。大塚准教授のグローバルスタディーズ演習では、「持続可能な開発目標（SDGs）」に関連づけて、グローバル・サウスの国々と日本のつながりについて多角的な視点から学修しています。昨年度に続き、フェアトレードをキーワードに、本学の青舎祭と東京たま未来メッセの出店イベントに参加し、購入者にフェアトレードコーヒーの値段を決めて購入してもらい、売上金を全額寄付する活動を実施しました。2024年は、年初に能登半島地震とその後の豪雨災害もあったことから、寄付先の団体を国内外とし、能登半島義援金、日本赤十字募金、黒柳徹子のユニセフ募金の3つにしました。実践を通してサステナブルな共生社会の創造に寄与する取り組みとなりました。



その他の活動

ベトナム市場でアース製薬製品のマーケティング戦略を提案する海外インターンシップを実施しました

2024年8月18日～24日

本学と近畿大学の学生が、共同キャリア教育プログラムの一環としてベトナムでの海外インターンシップを実施し、アース製薬株式会社製品「モンダミン」の市場開拓などの課題に取り組みました。また、インターンシップの総括として、帰国後に両大学の学生がアース製薬の本社を訪れ、代表取締役社長 川端克宜氏にベトナムでのマーケティング戦略についてプレゼンテーションを行いました。

インターンシップ期間中は、本学学生6名、近畿大学生14名の合計20名が混合で5つのグループを形成し、現地のホーチミン市外国語情報技術大学(HUFLIT)の学生と協力して、ホーチミン市での市場視察やアンケート調査等を行い、「モンダミン」のベトナムにおけるシェア拡大および市場開拓というミッションに挑戦しました。

ポルトガルのコインブラ大学と MOU を締結しました

2024年8月22日

本学はコインブラ大学(ポルトガル)と MOU を締結しました。コインブラ大学は1290年に創設されたポルトガル最古の大学で、ヨーロッパの総合大学39大学の学術・文化連盟であるコインブラ・グループを統括しています。

今後は以前からコインブラ大学と交流のある本学シミュレーション教育研究センター(TSERC)による Teikyo-Coimbra Simulation Center Conference の実施をはじめ、八王子キャンパスを拠点とした現代的観点からの両国交流の歴史分析、学部学生・大学院生の相互訪問・学修など多彩な交流を進めていく予定です。さらに両国大使館を交えて、大学の枠を超えた日本・ポルトガル両国の関係性強化にも貢献することが期待されます。

森ゼミがベトナム・フィンラップ村支援のためアップルパイを販売しました

2025年2月8日

本学共通教育センター准教授 森吉弘のゼミが、多摩センター駅前のパルテノン通りマルシェでアップルパイを販売し、売上額のうち加工費・輸送費を除いた全額をベトナム・フィンラップ村に寄付しました。

今回のプロジェクトは、森ゼミとかかわりのあるベトナム・フィンラップ村のライチの木が台風で枯れてしまったことを受け、村を支援することを目的にアップルパイの販売と寄付を決め、野菜班の学生たちが中心となり進めてきました。ゼミ生たちは、山形県米沢市にある森ゼミが所有するりんごの木「もりんご」を、森ゼミの卒業生で現在は農家をしている岡義将さんの指導を受けながら収穫し、同市の農業組合法人麦わらぼうしに協力いただきながらアップルパイの調理に取り組みました。販売日当日はゼミ生たちの活躍により、350個のアップルパイを完売することができました。寄付金はベトナム・フィンラップ村にてライチの植樹に役立てられます。

留学生が八王子市内の小学校を訪問し、ボランティア活動を行いました

2024年12月6日

八王子キャンパスに在籍するマレーシアとヨルダン出身の留学生2名が八王子市内の小学校を訪問し、児童との交流を目的としたボランティア活動を行いました。

本取り組みは、八王子市教育委員会が市内の小学校に通う児童と留学生の交流を通して、外国の言語や文化について理解を深めるとともに、外国語を用いたコミュニケーションの機会創出を目的としています。

当日は約60名からの温かい拍手で迎えられ、留学生たちは自国の文化や言語、食べ物などについてプレゼンテーションを行いました。児童たちは日本の文化・遊びが紹介され、書道体験や和太鼓体験も行われ、最後にはたくさんのお土産をプレゼントされました。



パンヤピット経営学院の副学長と国際部長が本学へ来訪しました

2024年5月20日

2015年度より本学とアジア国際交流プログラム(TAEP)を実施しているパンヤピット経営学院(タイ)の副学長 サイアム・チョクサワンウォン氏と同国際部長 ウサネ・クリントーンプラサット氏が本学へ来訪しました。TAEPは日本と東南アジア地域の発展に寄与する人材育成を目的に設立されたプログラムで、本学は東南アジア7か国の大学と協定を結び、留学生の受け入れおよび提携校への学生派遣を行っています。

当日行われた本学理事長・学長 冲永佳史との会談では、本学との学生交流を中心とする協力関係が順調に進展していることに対し、双方より満足の意が表明され、2024年度が TAEP 開始10周年にあたることから、チョクサワンウォン副学長より記念の盾が贈呈されました。今後の医療介護分野での協力について意見が交わされ、終始和やかな雰囲気の中で会談が行われました。

宇都宮キャンパス

基本情報

設置学部

理工学部、医療技術学部、経済学部

設置研究科

理工学研究科、経済学研究科、医療技術学研究科



春の桜が美しい、宇都宮の緑豊かな高台にキャンパスは位置します。東京ドーム6個分の広大な敷地を誇り、主に理工学部の実習室などが整う各学科棟が整然と配置された機能的な構内です。専門分野に特化した施設、最新の研究設備が充実しています。

教育活動

「さくらサイエンスプログラム」を実施しました

2024年12月16日～20日

宇都宮キャンパスにて、「さくらサイエンスプログラム」を実施しました。協定校であるパナメリカナ大学(メキシコ)から教員と学生8名をお招きし、理工学部機械・精密システム工学科および航空宇宙工学科での研修を行いました。本研修では CAD 体験や電気自動車・自動運転技術の講義・実習、ハイブリッドドローンの見学・操縦体験を実施し、最先端技術に触れる機会を提供しました。また、研究室でのディスカッションや学生同士の交流を通して、知識の共有と国際交流を深め、最終日には修了式や茶道体験を行い、日本文化への理解も促進しました。今回のプログラムを通して両大学間の連携がさらに強化され、今後の国際交流の発展が期待されます。



留学生と日本人学生で戦場ヶ原へハイキングに行きました

2024年6月30日

留学生37名と日本人学生3名、職員8名で栃木県日光市の戦場ヶ原へハイキングに行きました。本研修は、自然豊かな環境の中で交流を深め、国際化を促進することを目的としています。参加者達は日本ならではの湿原の景色や動植物を楽しみながら積極的に会話を交わし、親睦を深めることができました。宇都宮キャンパスでは、毎年このようなバスツアーを実施しています。今後も留学生と日本人学生間の交流の機会を設けるために、さらに多くの国際イベントを企画してまいります。

研究活動

理工学部学生が国際昆虫学会議(ICE2024)で論文発表を行いました

2024年8月25日～30日

国立京都国際会館で開催された国際昆虫学会議(XXVII International Congress of Entomology: ICE2024)にて、本学学生の天城史穂さん(理工学部4年)が論文発表を行いました。

ICEは昆虫学全般にかかる最も包括的な国際会議で約4年ごとに各国で開催されています。天城さんは理工学部情報電子工学科に所属しており、2023年9月から同学部同学科教授 蓮田裕一のもとで、人工知能(AI)を活用した自律型ロボット設計製作に取り組み、「Pattern recognition and detection of damage to crops of stink bugs using AI」という題目で、カメラを搭載した巡回ロボットが農地や果樹園を巡回し、カメムシとその被害を検出するシステムの提案と効果について発表を行いました。天城さんは小学校をアメリカで過ごしたこともあり、堪能な英語力を駆使して未来のスマート農業のあり方を披露しました。

その他の活動

JASSO 主催の日本留学フェア(台湾・韓国・ベトナム)に参加しました

2024年7月13日～14日、8月4日、10月20日

台湾、韓国およびベトナムにて JASSO 主催の日本留学フェアに参加しました。本フェアは日本への留学や進学を希望している学生が、具体的なイメージを深める場として開催されています。本学の教育の特徴、入試情報、減免・奨学金制度、そしてキャンパスごとの特色や学生生活について説明を行いました。参加した学生からは多岐にわたって質問があり、留学への高い関心が伺えました。



福岡キャンパス

基本情報

設置学部
福岡医療技術学部
設置研究科
保健学研究科



福岡キャンパスには医療系学科が集まっており、最新の設備のもと、地域医療を支えるための高度な専門知識を持つ医療人材を育成しています。福岡医療技術学部および保健学研究科では、希望者制でアメリカ・コロラド州デンバーを拠点とした海外医療研修を実施しています。現地での研修・見学を通して、日本とは異なる視点から医療を体験できる機会があります。

教育活動

2024年度海外医療研修「デンバー研修」を実施しました

2024年9月2日～9日

福岡医療技術学部が主催する海外医療研修「デンバー研修」を実施しました。本研修はグローバルに活躍できる人材の育成を目指し、海外の医療制度を学ぶことを目的にアメリカ・コロラド州デンバーで行っており、今年度は計14名の学生が参加しました。現地ではロッキー山脈地域で小児科最先端医療を担うコロラドこども病院、ドクターヘリで山岳救助を行う救急医療施設である聖アンソニー病院、脊椎損傷専門のクレイグ病院を訪問し、アメリカの最先端医療を見学しました。レジス大学では解剖実習に参加し、現地学生と体の仕組みについて熱心に学び、ランチ交流会などを通じて英語でのコミュニケーションを楽しむことができました。



大牟田市近隣在留の外国人医療従事者との交流会を実施しました

2024年7月16日

福岡医療技術学部の学生と教職員が、大牟田市近隣在留の外国人医療従事者との交流会を実施しました。本取り組みは経済連携協定(EPA)に基づいて、日本で就労しながら国家資格の取得を目指している外国人医療従事者との交流を通して、多様な価値観を共有し、友情を育み、ともに学修することを目的としています。当日は、インドネシアやベトナム出身の5名の外国人医療従事者と16名の学生および10名の教職員が参加しました。5つのグループに分かれ、乾杯を行ったあと骨標本を用いて骨名称、関節名称、筋名称から疾患名を想起し、国家試験に必要な医療用語を学習しました。

大牟田市近隣在留の外国人医療従事者との第2回交流会を開催しました

2024年10月20日

経済連携協定(EPA)に基づき来日している外国人医療従事者と本学学生との第2回交流会を開催しました。学生たちがミャンマー料理の調理方法を教わりながら調理を行い、完成した料理を参加者全員で試食し、和やかな雰囲気の中で交流を深めることができました。また、教員手づくりの「消化器双六」ゲームを通じて、学生と外国人医療従事者がさらに親交を深めました。

本キャンパスの学生にとって、外国人医療従事者との交流会は、大学の授業だけでは得られない異文化理解を深める貴重な機会となっています。

国際的な活動に関する講演会を開催しました

2025年3月12日

「教員の国際的な活動の推進」を目的として、FD委員会と国際交流委員会の共催で国際的な活動に関する講演会を開催しました。講演会は全教職員を対象とし、カンボジアで医療支援を行った医療技術学科助教 輪内敬三より「カンボジア医療支援について」、韓国の春海保健大学の交流会の受け入れの運営を行った医療技術学科助教 吉村優希より「春海保健大学(韓国)との交流会」、タイのマヒドン大学とのMOU締結を実現するためタイを訪問した診療放射線学科教授 川村慎二より「マヒドン大学(タイ)とのMOU締結」についての講演がありました。

コロラド州立大学准教授 加藤宝光氏を招聘し、生物学実験や特別講義を実施しました

2024年6月24日～26日

福岡キャンパスにコロラド州立大学准教授 加藤宝光氏が来校されました。加藤氏には2022年度から3年連続で来校いただいており、今回の来校期間中は生物学実験や2本の特別講義に加え、学生や教員との研究や留学に関する個別相談も実施されました。

生物学実験には計52名の学生・教員が参加し、玉ねぎ・バナナ・口腔粘膜を利用したDNA抽出実験などを行いました。特別講義には計168名の学生・教職員が参加しました。特別講義は、加藤氏の研究や日本とアメリカの生活環境の違いなどについて実例を交えながら分かりやすく紹介した内容で、講義後には多数の学生から質問があり、活発な議論が展開されました。

研究活動

カンボジアのJapan Life Poly Clinicにて医療支援活動を実施しました

2025年3月1日～7日

福岡医療技術学部医療技術学科助教 輪内敬三が、共同研究者の株式会社Redge代表 稲垣大輔氏とともに、カンボジアにあるJapan Life Poly Clinicで医療支援活動を行いました。今回の活動では、クリニック内の医療設備や診療体制の課題の確認、水質管理状況の調査および安全な医療環境の維持に向けた対策の検討、技術指導や治療法の適用状況の確認、クリニックの運営に関する経営的な侧面についての議論等を行い、持続可能な医療提供のための方策について意見交換を行いました。

今回の医療支援活動を通して、現地の医療環境では多くの課題が浮き彫りになりました。特に水質管理や医療技術の向上、患者教育の強化など、今後継続的に取り組むべき課題が多く残されていることが明らかになりました。次回の支援に向けた改善点や教育方針を整理し、今後も課題解決に向けて一歩ずつ取り組んでいきます。



その他の活動

韓国の春海保健大学から学生の訪問を受け入れました

2024年12月20日

韓国の春海保健大学より緊急救助科・作業療法科・診療放射線科の教員および学生計20名を迎え、交流会が開催されました。当日は作業療法学科の授業および救急救命コースの実習、キャンパスツアー、教員と学生に分かれての交流会を行いました。

学生の交流会では、日韓合同で「マッシュマロ・チャレンジ」を実施し、ゲームを通じて学生同士が自然に打ち解け、言語の壁を越えた交流が深まりました。交流会終了後にはSNSのDMを通じた連絡先の交換も行われ、本学学生にとって韓国の医療系大学に在籍する学生との交流は非常に良い刺激となり、現在も学生同士の交流は継続しています。



4. センター・研究所の国際的な取り組み

帝京大学グループダラムキャンパス



基本情報

所在地

Lafcadio Hearn Cultural Centre, Mill Hill Lane, Durham, DH1 3YB, UK

設立

1990年

本学が英国北東部に位置するダラム市に1990年に開設したキャンパス。日本の大学が海外に所有している数少ないキャンパスの1つです。本学は同市内の名門ダラム大学とも学術提携を有しており、同キャンパスはダラム大学に隣接しています。ダラム市は学生の街で治安もよく、ダラム大聖堂などの世界遺産や緑に囲まれた環境にあります。ダラム大学とはスポーツ交流やダラム大学生のランゲージパートナー制度など、教員・学生レベルでの交流機会が多く、本格的な英語を習得できます。同キャンパスには、本学の職員も駐在しているため、学習や生活面でのサポート体制も十分に整っており、留学生には安心な環境を提供しています。また、ダラム留学中に受講する科目は最大22単位まで取得できるため、休学することなく留学を経験できます。

ダラムキャンパス留学年間スケジュール



主な活動

ダラムキャンパス春期と秋期の定期留学コースに本学および帝京平成大学から留学生を受け入れているほか、外国語学部2年次全員留学の派遣先にもなっています。また、2023年4月からは外国語学部国際日本学科2年次の語学・研修プログラムの受け入れを開始しました。奨学特待生コースがあることもダラム留学の特徴であり、一定の英語力と学業成績を修めている学生に対して、奨学金を支給して留学を促進する制度を設けています。

学習面では能力別クラスに分かれ、「読む」「書く」「聞く」「話す」の4技能の向上を目指して、外国人講師による本格的な指導を受けることができます。留学期間には定期的にTOEICやIELTSなどの語学試験を受験して実力レベルを測定します。専門家によるゲストレクチャーも行っており、英国文化や時事問題の分野の講義を通して英語力の向上に役立てています。

生活面では留学生は滞在中、ダラム大学の4つのカレッジに所属することになり、各カレッジ内で食事やクラブ活動、各種行事に参加しながら、ダラム大生とのコミュニケーションを深めています。

校外体験では希望する学生に職場体験プログラムを用意しており、キャンパス近くの保育所や理容室で実際に英国の職場文化に触れながら、英語力のみならず異文化コミュニケーション能力を身につけます。また、学校訪問プログラムでは地元の中学校を訪れて、日本語や日本文化（書道、折り紙、浴衣の着付けなど）を教える体験をしています。

2024年度は近畿大学と東海大学、そして本学で構成される「私立総合3大学アライアンス」における試みとして、「3大学アライアンス ダラム短期研修」を3大学合同で実施しました。このアライアンスは、2021年より本学と近畿大学、東海大学で開始した連携であり、個別大学の枠組みを越え、総合的な連携協力体制を構築するために行っています。本研修には本学から2名、近畿大学4名、東海大学1名が参加して、英国にて大学を超えた交流をはかりました。

先端総合研究機構

先端総合研究機構（先端総研）は、本学の持つ研究シーズとニーズの価値を高めるとともに、その知見に基づき、社会の発展に貢献し、以って本学の研究力を高めることを目的としています。

浅島誠教授がドイツのフライブルグ大学で開催された「Self-Organization in Biology -Freiburg Spemann-Mangold Centennial Symposium」において基調・招待講演を実施しました

2024年9月16日～19日

先端総合研究機構特任教授 浅島誠がドイツのフライブルグ大学で開催された「Spemann-Mangold のオーガナイザー発見100周年記念国際シンポジウム」で基調・招待講演を行いました。シンポジウムには世界中から約300名余りが集まり、4日間にわたって最先端の研究も含めて内容のある講演が多く行われました。今から100年前の1924年に Spemann らがこの大学で胚発生での形形成のセンター（オーガナイザー）を発見しました。

本講演は「Spemann-Mangold organizer and Mesoderm induction by Activin」のタイトルで行われ、誘導物質のアクチビンの発見、器官や組織形成、体の頭部と胴尾部形成、オタマジャクシ様の胚様体（発表中の写真）について講演しました。シンポジウムは大きく9つのセッションで構成され、開催中は毎日、講演とポスター発表があり、世界中の研究者の興味深い成果の発表と討論がなされました。本シンポジウムはドイツ政府、国際発生生物学学会、エルゼビア社などの支援もあり、国際誌『Cells & Development』に特集号として掲載されています。



岡本康司教授の研究が米国科学誌『Cell Reports Medicine』のオンライン版に掲載されました

2024年4月26日

先端総合研究機構教授 岡本康司が、JST 戦略的創造研究推進事業 CRESTにおいて、共同研究により難治性卵巣がんの治療抵抗性を引き起こす細胞間の協調作用を発見しました。本研究成果は米国科学誌『Cell Reports Medicine』のオンライン版に掲載され、記者発表が行われました。

岡本教授らは、抗がん剤が効きにくい臨床卵巣がんを構成する細胞組織の解析を行い、がん組織内にある「がん関連線維芽細胞（CAF）」ががん細胞と協調することにより、抗がん剤に抵抗性となること、CAF の働きを抑える薬剤と併用することで、既存の抗がん剤が効きやすくなることを明らかにしました。新潟大学や国立がん研究センターとの共同研究で、難治性卵巣がんの治療薬の開発が期待されます。

帝京大学文化財研究所

本学ではシルクロード総合学術センターと文化財科学研究センターの2つの研究センターを設置し、より幅広く文化財・文化遺産を対象とする学際的な調査・研究を行っています。2012年4月に本学の研究所として新たに発足し、埋蔵文化財の調査研究にとどまらず、文化遺産の保護活用など、幅広く文化財を題材とした高水準な研究と教育を世界に発信しています。

文化財研究所とアゼルバイジャン国立科学アカデミー考古人類学研究所が MOU を締結しました

2024年10月2日

文化財研究所はアゼルバイジャン国立科学アカデミー考古人類学研究所（アゼルバイジャン・バクー）と MOU を締結しました。同研究所は国際的にも関心の高いアゼルバイジャンの遺跡の発掘調査や文化遺産保護に従事する職員を多数かかえ、多くの国際共同研究を行っています。しかし、自然科学的な分析についてはまだ専門家が少ないほか、水中遺跡の調査の進展が待たれています。水中遺跡を中心に据えた調査を進めるため、カスピ海考古学部門（Department of Caspian Archaeology）が設立されました。これらの分野に関する国際協力を進めるため、文化財研究所所長 山内和也とアゼルバイジャン古学・人類学研究所所長 ファルハド・キリエフ氏は国際協力を進める MOU を締結しました。





帝京大学医真菌研究センター

医真菌学の発展のための教育および研究を精力的に行っている研究機関です。真菌症の診断・治療法の開発をはじめとし、医真菌学において多岐にわたる研究を行なながら、一方で病原真菌株の収集保存および分譲を行っています。

医真菌研究センターのメンバーと大学院生がアジア・太平洋医真菌学会および日本医真菌学会にて優秀賞を受賞しました

2024年11月6日～9日

国立京都国際会館(京都府京都市)で合同開催された「第8回アジア・太平洋医真菌学会」「第68回日本医真菌学会総会」において、医真菌研究センターのメンバーと本学大学院の学生が、優秀演題賞ならびに Excellent Presentation Award に選ばされました。

同センターにおける医真菌研究と学術的活動が高く評価され、今回の受賞に至りました。同センター副センター長・教授 横村浩一は、「複数のスタッフが選出されたことは、本センターの活動が高く評価された証であると確信しております。この度の栄誉を励みに、今後とも所属メンバー一同、一層精進してまいります」と話しました。



帝京大学アジア国際感染症制御研究所(ADC)

本研究所はアジア諸国との国際交流を行い、感染症制御に関して国内外の多様な組織との共同研究を通して、グローバルヘルスに貢献することを目指しています。また、患者と医療者がともに安心と信頼に基づいた社会の構築を目指し、新たな視点から医学、医療、保健の進歩に貢献することを目的としています。

第5回 ADC 国際合同会議を実施しました

2025年3月25日～26日

アジア国際感染症制御研究所は、ベトナム国立小児病院よりゲストとして病院長、医師、研究者をお迎えして国際合同会議を実施しました。同病院とはかねてより親交・交流を深めており、本学とはMOUを締結しています。例年、医学部学生がBSLおよび衛生学公衆衛生実習として訪問している機関でもあるため、研究者だけでなく学生との実習交流などさまざまな取り組みを行っています。

今回の会議では「小児疾患とAI分析による画像診断」をテーマとして、医学部附属病院小児科医師も交え、それぞれの専門的観点から疑問点や今後の展望について議論を交わしました。また、本学でも研究を進めている「Stem Cell Therapy Project(特定認定再生医療等)基礎研究」においての意見交換も行い、今後の共同研究の可能性についても協議しました。



沖永総合研究所

本研究所では現実社会におけるさまざまな課題に挑戦し、新たな発想で未来を切り拓いていく人づくり、多様な人間の協働による共創社会を目指して、さらなる教育・研究の充実と社会貢献を進めます。

杉本教授と末吉助教が韓国消化器内視鏡学会2024にて優秀演題賞を受賞しました

2024年9月27日～28日

韓国・ソウルで開催された韓国消化器内視鏡学会2024(KSGE Days 2024)において、沖永総合研究所Innovation Lab教授 杉本真樹と同研究所助教 末吉巧弥の発表演題「ウェアラブルヘッドマウント没入型マルチモーダル内視鏡・ロボット腹腔鏡消化器手術支援システムの開発」が、優秀示説演題賞 Excellent E-Poster Award を受賞しました。この賞は消化器内視鏡分野における優れた研究発表に贈られるもので、杉本教授と末吉助教の研究と革新技術が国際的に高く評価されました。

本学会では消化器内視鏡の最新の技術や研究成果が議論され、杉本教授と末吉助教は、ウェアラブル技術とXR技術を活用した内視鏡手術支援システムに関する発表を行いました。

帝京大学リカレントカレッジ「米国の新政権と今後の国際情勢」を実施しました

2025年2月20日

帝京大学リカレントカレッジ国際教養セミナー「米国の新政権と今後の国際情勢」(後援:千代田区)を実施しました。本セミナーは「日米関係が終戦から80年の節目を迎える一方、ロシアのウクライナ侵攻やイスラエルのガザ攻撃など混迷する国際情勢に日本はどう向き合えばよいのか?」をテーマとしました。

第一部では国際政治の専門家にご登壇いただきました。上智大学総合グローバル学部教授 前嶋和弘氏は「日米関係、これまで、そして今後について、戦後から現在までの日米関係と長期を見据えて日本はどう対応すべきかを提示しました。元テレビ朝日報道局長 武隈喜一氏は「ウクライナ戦争は世界をどう変えたか?」について、この3年の戦況を検証し、トランプ政権の戦争終結に向けた方針を考察しました。本学法學部教授 渡邊啓貴は「ウクライナ・ガザ紛争と欧米関係の新たな展開の可能性ー『デジャヴュ』の繰り返しか?」と題し、米欧関係を軸とした国際社会の構造変化と紛争の行方、欧州や日本が果たすべき役割について解説しました。

第二部のパネルディスカッションでは、本学経済学部教授・ジャーナリスト 軽部謙介をモデレーターに、混沌とする世界情勢が今後どこへ向かうのか、また日本はこの状況にどう向き合うべきか、会場からの質問を交えながら議論を深めました。

帝京大学リカレントカレッジ「学んで食べる食文化講座」を実施しました

2024年10月28日

霞ヶ関キャンパスにて帝京大学リカレントカレッジ「学んで食べる食文化講座」を実施しました。本講座は、フランスの食文化の最大の特徴である「美食(ユネスコ無形文化遺産登録)」をテーマに、家庭料理・地方料理の観点からフランス人の美食について学び、実際に料理を味わっていただくプログラムです。学術顧問 廣田功の講義では、フランス人の美食とは何か、美食の文化が育まれた歴史的背景、パリの家庭料理について学術的な視点から解説があった後、日仏会館「レスバス」元オーナーシェフがつくるパリの代表的な家庭料理・地方料理を楽しんでいただきました。帝京大学リカレントカレッジでは、今後も体験型のリカレント教育プログラムを企画運営していきます。



帝京大学スポーツ局

本学におけるスポーツに関する取り組みを一体的に統括し、本学のスポーツ振興、学術研究・教育の充実、および学外連携・社会貢献を推進することにより、大学スポーツの価値を高め、スポーツを通じた社会の発展に寄与することを目的とした組織です。

留学生剣道体験教室を行いました

2024年6月19日

本学総合武道館にて、帝京大学アジア交流プログラム(TAEP)の留学生を中心に、約15名に対して剣道の体験教室を開催しました。留学生は、部員の稽古や試合風景を見学し、後半は実際に剣道防具を着けての稽古を実施しました。剣道部としても、他国的学生に剣道を教えることはなかなかない機会であり、武道の持つ倫理観や競技としての楽しさを感じてもらう、貴重な時間となりました。詳細な説明は中西先生と日本語が得意な留学生が英訳しつつ、剣道部員が作成した英文により行われました。

帝京大学アジア交流プログラム(TAEP)は、経済学科・国際経済学科・経営学科を対象に、日本とアジアの発展に貢献する人材の育成を目的としています。アジア交流プログラムの科目は複数用意されており、講義はすべて英語で行われます。



外国人留学生在籍者数

※留学生とは在留資格が「留学」である学生をいう。

学部:文・外国語・教育・経済・法

学部	学科	留学生数(人)				
		2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
文学部	日本文化学科	48	50	43	38	34
	史学科	19	26	22	22	28
	社会学科	42	57	67	72	76
	心理学科	83	84	82	79	88
	文学部合計	192	217	214	211	226
外国語学部	外国語学科	49	51	47	42	36
	国際日本学科	—	—	39	89	146
	外国語学部合計	49	51	86	131	182
教育学部	教育文化学科	30	31	40	51	55
	初等教育学科	0	0	0	1	1
	教育学部合計	30	31	40	52	56
経済学部	経済学科	138	124	113	126	122
	国際経済学科	70	87	58	53	67
	地域経済学科	19	19	14	13	11
	経営学科	317	317	284	280	301
	観光経営学科	103	86	67	47	49
	経済学部合計	647	633	536	519	550
法学部	法律学科	21	25	32	29	41
	政治学科	2	2	3	4	7
	法学部合計	23	27	35	33	48

※各年度5月1日付の集計結果

学部:医学・薬学・理工・医療技術

学部	学科	留学生数(人)				
		2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
医学部	医学科	0	1	1	1	1
	医学部合計	0	1	1	1	1
薬学部	薬学科	6	7	6	6	8
	薬学部合計	6	7	6	6	8
理工学部	総合理工学科	—	—	—	—	—
	機械・精密システム工学科	38	28	23	22	23
	航空宇宙工学科	5	5	6	6	6
	情報電子工学科	50	49	38	49	41
	バイオサイエンス学科	23	22	22	24	26
	データサイエンス学科	—	—	—	—	—
	情報科学科通信教育課程	0	0	0	0	0
	理工学部合計	116	104	89	101	96
	医療技術学部	0	0	0	0	0
医療技術学部	看護学科	0	0	0	0	0
	診療放射線学科	0	0	0	0	0
	臨床検査学科	2	2	0	1	1
	スポーツ医療学科	7	7	2	5	4
	柔道整復学科	0	0	7	0	0
	医療技術学部合計	9	9	9	6	5
	福岡医療技術学部	0	0	0	0	0
	全学部総合計	1072	1080	1016	1060	1173

※各年度5月1日付の集計結果



大学院研究科・専攻別

博士前期課程・修士課程・専門職学位課程

研究科	専攻	留学生数(人)			
		2023年度		2024年度	
		正規課程	科目等履修生等	正規課程	科目等履修生等
文学研究科	日本文化専攻	9	1	9	1
	史学・文化遺産学専攻	1	0	2	0
	臨床心理学専攻	1	0	0	0
	心理学専攻	0	0	3	0
	文学研究科合計	11	1	14	1
経済学研究科	経済学専攻	11	0	18	0
	経営学専攻	26	0	20	4
	地域経済政策学専攻	1	0	3	0
	経済学研究科合計	38	0	41	4
法学研究科	法律学専攻	2	0	4	0
	法学研究科合計	2	0	4	0
理工学研究科 理工学研究科 (通信教育課程)	総合理工学専攻	14	0	6	0
	情報科学専攻	0	0	0	0
	理工学研究科合計	14	0	6	0
医療技術学研究科	視能矯正学専攻	0	0	0	0
	看護学専攻	0	0	0	0
	診療放射線学専攻	0	0	0	0
	臨床検査学専攻	1	0	1	0
	救急救護学専攻	0	0	0	0
	スポーツ健康科学専攻	0	0	0	0
	柔道整復学専攻	0	0	0	0
	医療技術学研究科合計	1	0	1	0
外国語研究科	超域文化専攻	2	0	9	0
	外国語研究科合計	2	0	9	0
保健学研究科	診療放射線科学専攻	0	0	0	0
	看護学専攻	0	0	0	0
	保健学研究科合計	0	0	0	0
教職研究科	教職実践専攻	0	0	0	0
	教職研究科合計	0	0	0	0
公衆衛生学研究科	公衆衛生学専攻2年コース	1	0	1	0
	公衆衛生学専攻1年コース	0	0	0	0
	公衆衛生学研究科合計	1	0	1	0
総合データ応用プログラム	総合データ応用プログラム	3	0	3	0
	総合データ応用プログラム合計	3	0	3	0
	総合計	72	1	79	5

※各年度5月1日付の集計結果

博士後期課程・博士課程

研究科	専攻	留学生数(人)			
		2023年度		2024年度	
		正規課程	科目等履修生等	正規課程	科目等履修生等
医学研究科	医学専攻	3	0	2	0
	医学研究科合計	3	0	2	0
文学研究科	日本文化専攻	0	0	0	0
	史学・文化遺産学専攻	0	0	0	0
	心理学専攻	0	0	0	0
	文学研究科合計	0	0	0	0
薬学研究科	薬学専攻	0	0	0	0
	薬学研究科合計	0	0	0	0
経済学研究科	経済学専攻	0	0	0	0
	経営学専攻	2	0	2	0
	経済学研究科合計	2	0	2	0
法学研究科	法律学専攻	0	0	0	0
	法学研究科合計	0	0	0	0
理工学研究科	総合理工学専攻	1	0	2	0
	理工学研究科合計	1	0	2	0
	医療技術学研究科	0	0	0	0
医療技術学研究科	看護学専攻	0	0	0	0
	診療放射線学専攻	0	0	0	0
	臨床検査学専攻	0	0	0	0
	医療技術学研究科合計	0	0	0	0
	外国語研究科	0	0	2	0
保健学研究科	超域文化専攻	0	0	2	0
	保健学研究科合計	0	0	2	0
公衆衛生学研究科	公衆衛生学専攻	0	0	0	0
	公衆衛生学研究科合計	0	0	0	0
医療データサイエンス プログラム	医療データサイエンスプログラム	0	0	0	0
	医療データサイエンスプログラム合計	0	0	0	0
	総合計	6	0	8	0

※各年度5月1日付の集計結果



帝京大学

国際化アニュアル・レポート2024

2026年1月発行

編集・発行 帝京大学 国際化推進室

編集 帝京大学出版会

【TEL】

板橋オフィス(本部棟5階) 03-3964-9044(外線)/20580(内線)

八王子オフィス(11号館2階) 042-678-3306(外線)/3306(内線)

【email】

globalio @ teikyo-u.ac.jp(国際化推進室共有)